

付属資料・目次

特記仕様書（抜粋）	特 1
現場説明付記事項・配置図	1
平面図	2～7
立面図	8～9
矩計図	10

京都大学（南部）学内共同研究センター共同研究棟改修その他工事

I 工 事 概 要

1. 工事場所

京都市左京区吉田下阿達町46（京都大学旧京都織物跡構内）

2. 完成期限

令和8年2月27日（金曜日）

3. 建物概要

建 物 名 称	学内共同研究センター共同研究棟			
工 種	模様替			
構 造	RC			
階 数	地上5階			
建築基準法による	建築面積(㎡)	500.84		
	延べ面積(㎡)	2,123.24		
消防法施行令別表第一の区分	(7)			
改 修 面 積（㎡）	2,123.24			
備 考	—			

4. 工事種目（印の付いたものが対象工事種目）

工 事 種 目	工 事 種 別	
	建物別及び屋外	学内共同研究センター共同研究棟
○ 2 仮設工事	一式	
○ 3 防水改修工事	一式	
○ 4 外壁改修工事	一式	
○ 5 建具改修工事	一式	
○ 6 内装改修工事	一式	
○ 7 塗装改修工事	一式	
・ 8 耐震改修工事		
○ 9 環境配慮改修工事	一式	
・ プール改修工事		

5. 指定部分

○無 ・有 対象部分（指定部分工期 令和 年 月 日（曜日））

6. 概成工期

○無 ・有 令和 年 月 日（曜日） (1.2.1) [1.2.1]

II 工 事 仕 様

1. 共通仕様

(1) 国立大学法人京都大学契約事務取扱要領（平成16年4月1日財務担当理事裁定制定）別記第1の工事請負契約基準、現場説明書、図面 枚及び本特記仕様書 枚によるほか、印の付いたものを適用する。

○ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）（以下「標準仕様書」という。）

○ 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）（以下「改修標準仕様書」という。）

○ 建築工事標準詳細図（令和4年改定）（以下「標準詳細図」という。）

○ 建築工事標準解体工事共通仕様書（令和4年版）

○ 文部科学省建築工事標準仕様書（特記基準）（建築工事編）（令和4年版）（以下「文科仕様書」という。）

○ 文部科学省建築改修工事標準仕様書（特記基準）（建築工事編）（令和4年版）（以下「文科改修仕様書」という。）

○ 工事写真撮影要領（令和5年9月）

(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれの工事特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（ ）図、機械設備工事の特記仕様書は（ ）図による

2. 特記仕様

(1) 本特記仕様書の表記

1) 項目は、印の付いたものを適用する。

2) 特記事項は、印の付いたものを適用する。

○ 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。

○ 印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。

3) 特記事項に記載の（ ） 内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の〔 〕 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の（〔 〕） 内表示番号は、文科仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の〔〔 〕〕 内表示番号は、文科改修仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

4) 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和5年2月24日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

各章共通事項

1

○ 適用区分

○ 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。

○ 風圧力

風速（Vo＝ 32 m/s）

地表面粗度区分（ ・ I ・ II ○ III ・ IV ）

○ 積雪荷重

平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域 別表（ 32 ）

(1.3.3～4) [1.3.3～4]

この工事現場に下記いずれかの資格を有する電気保安技術者を選任する。

項 目 名	電気保安技術者
1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	○
2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○
3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	・
4 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	・
5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	・
6 第1種電気工事士の資格を有する者	・
7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	・
8 第2種電気工事士以上の資格を有する者	・
9 短期大学若しくは高等学校学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	・

工事用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。

(1.3.5) [1.3.5]

この工事現場では、次の施工条件による。

●構内の行事等により作業が制限されることがあるため、監督職員と協議を行い、工程を決定すること。

●本工事建物周辺には、研究棟や住宅等が立地することを十分認識し、周辺への影響に配慮すると共に、安全にも十分に配慮すること。

●工事用地および工事用地周辺において適切な養生・清掃を行うこと。また、工事車両の搬出入時などに周辺道路等を汚損、破損等をした場合は速やかに対応すること。

●臭気の発生する作業は、周囲に対して影響が少ない工法を採用すること。

●穿孔工事等の騒音・振動・粉塵の発生する作業は、低騒音・低振動・低粉塵工法を採用すること。

●各施設への通行動線を確保するとともに安全対策を講ずること。

●工事車両の通行は交通整理員を配置する等、安全対策を講ずること。

●その他建物内や敷地周囲に影響があると思われる作業については、監督職員と協議を行い進めること。

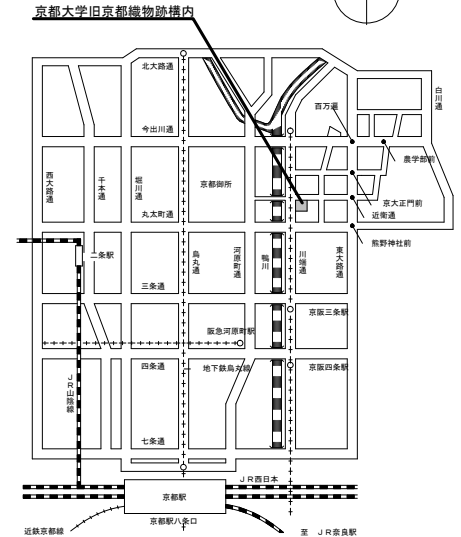
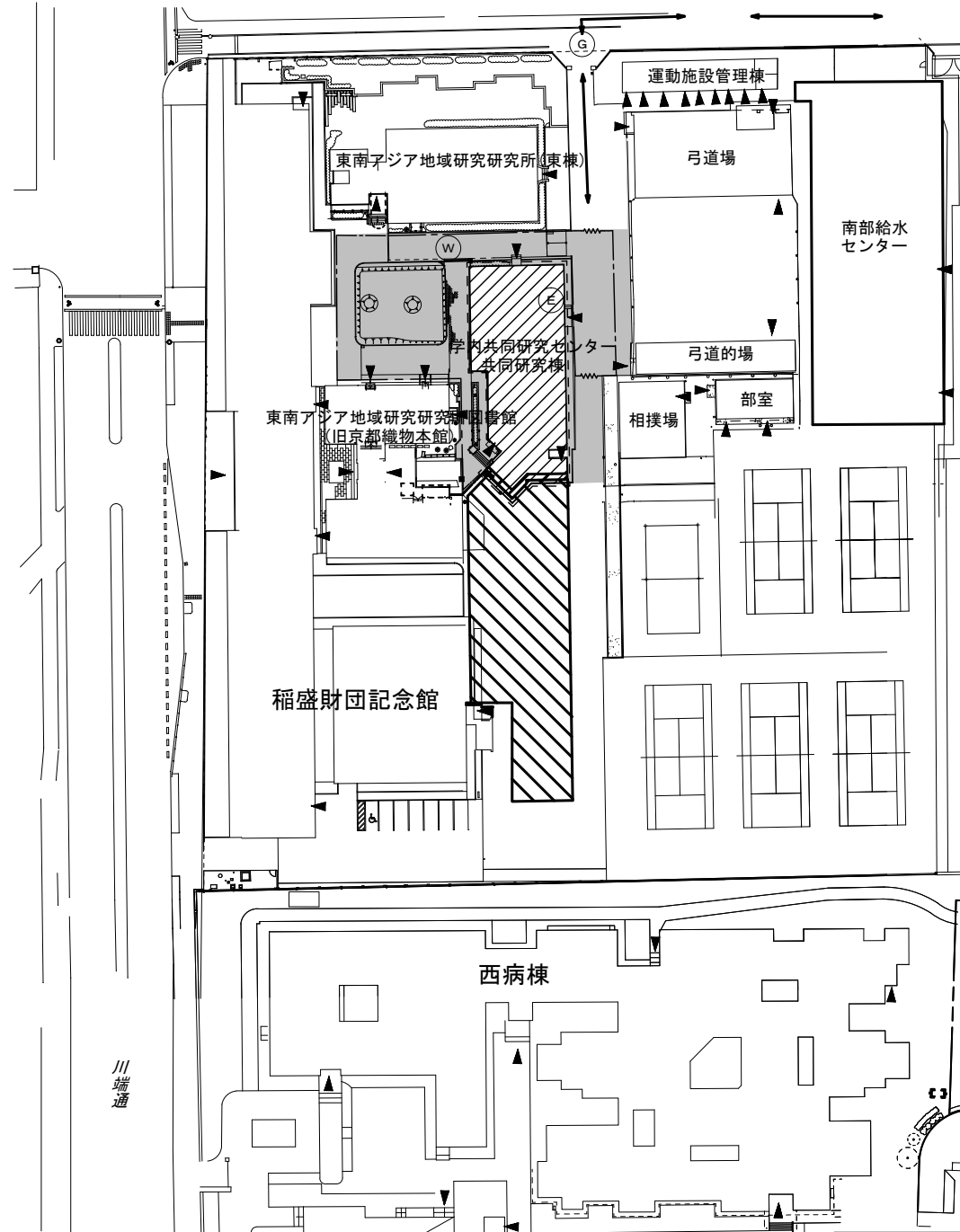
●付近で建築中の建物と本工事建物は接続して一棟の建物とする計画のため、建築中の工事と本工事での取り合いについては、建築中の工事業者、監督職員と調整・協議を行い進めること。

○ 施工条件

工事名 京都大学（南部）学内共同研究センター共同研究棟改修その他工事			図面番号
図面名称 特記仕様書（抜粋）	縮尺	設計日 令和7年6月	特1

現場説明付記事項

- 1 工事施工上の注意事項
- 1) 車両通行経路は、図示の通りとし監督職員と協議の上、誘導員等を配置し、交通整理を行うこと。
工事車両は周辺道路路上での違法駐車は行わないようとし、また路上に縦列待機させることも行わないこと。
 - 2) 工事用地は図示の範囲とし、危険防止のため関係者以外の出入りができないようにすること。また、工事関係車両（通勤車両を含む）は工事用地内に駐車することを原則とし、構内の駐車エリア、道路及び空地への駐車は行わないこと。
 - 3) 学校行事・近隣地区行事を考慮して工事計画を立てること。
以下の日程は試験及び行事予定日のため、作業中止日として、工事の計画を立てること。
・令和7年11月20日、11月21日、11月22日、11月23日（11月祭）
・令和7年12月14日（特色入試）
・令和8年1月17日、1月18日（大学共通テスト）
・令和8年2月26日、2月27日（一般入試）
その他、学内の試験等による作業の中止については、監督職員と協議すること。
 - 4) 撤去工事その他で大きな音、振動等が生じる場合は、あらかじめ監督職員に日時を連絡し、承諾を得て工事を進めること。また、施工中の防音対策を十分に検討し行うこと。
 - 5) 教職員、学生等の通行が滞り兼ね、構内車両通行には徐行の徹底等、十分注意するよう指導を行うこと。
 - 6) 工事場内に火災予防のため適切な数量の消火器を設置するとともに、工事関係者に対し、火気等の取り扱いに十分注意するよう指導を行うこと。
 - 7) 支障となる地中埋設物を発見した時は、監督職員と協議の上撤去し、適正処分すること。
 - 8) 工事用地は、除草等に良好な環境を保持すると共に工事完成時には原状に復旧して返還すること。
 - 9) 同一構内の他工事の業者と連絡調整を密に行い、安全かつ円滑な工事の実施に努めること。
 - 10) 作業時間は、午前8時30分から午後5時15分を原則とすること。
 - 11) 敷地内及び近隣では喫煙は行わないこと。
- 2 工事中の構内安全対策について
- 工事中の構内安全対策については、下記事項を十分留意した上、具体的な安全対策等を立案し、監督職員と協議の上、承諾を受けるものとする。
- 1) 監督職員と協議の上、構内要所に工事予告板、警戒標識板、交通規制標識板、工事表示板、案内板等を設置し、常に良好な状態に保つこと。
 - 2) 構内で工事に伴い、段差等の危険な状態となる箇所には、安全柵、工事中表示板（点滅灯付）を、夜間は保安灯及び赤色回転灯を配置し、安全な状態を確保すること。
 - 3) 構内通行の安全及び騒音防止のため工事用車両は徐行すること。
 - 4) 大型車両の構内通行に際し、地中埋設物、マンホール等は必要に応じて養生を行うこと。
 - 5) 大型車両による作業の場合は必要に応じて交通整理員を追加増員し、誘導・交通整理等により構内の安全確保に努めること。
 - 6) 仮囲いの設置に伴い、構内道路の視認性が確保できない場合は、常夜灯及びコーナ一部に透明パネルを設置するなど安全確保に努めること。

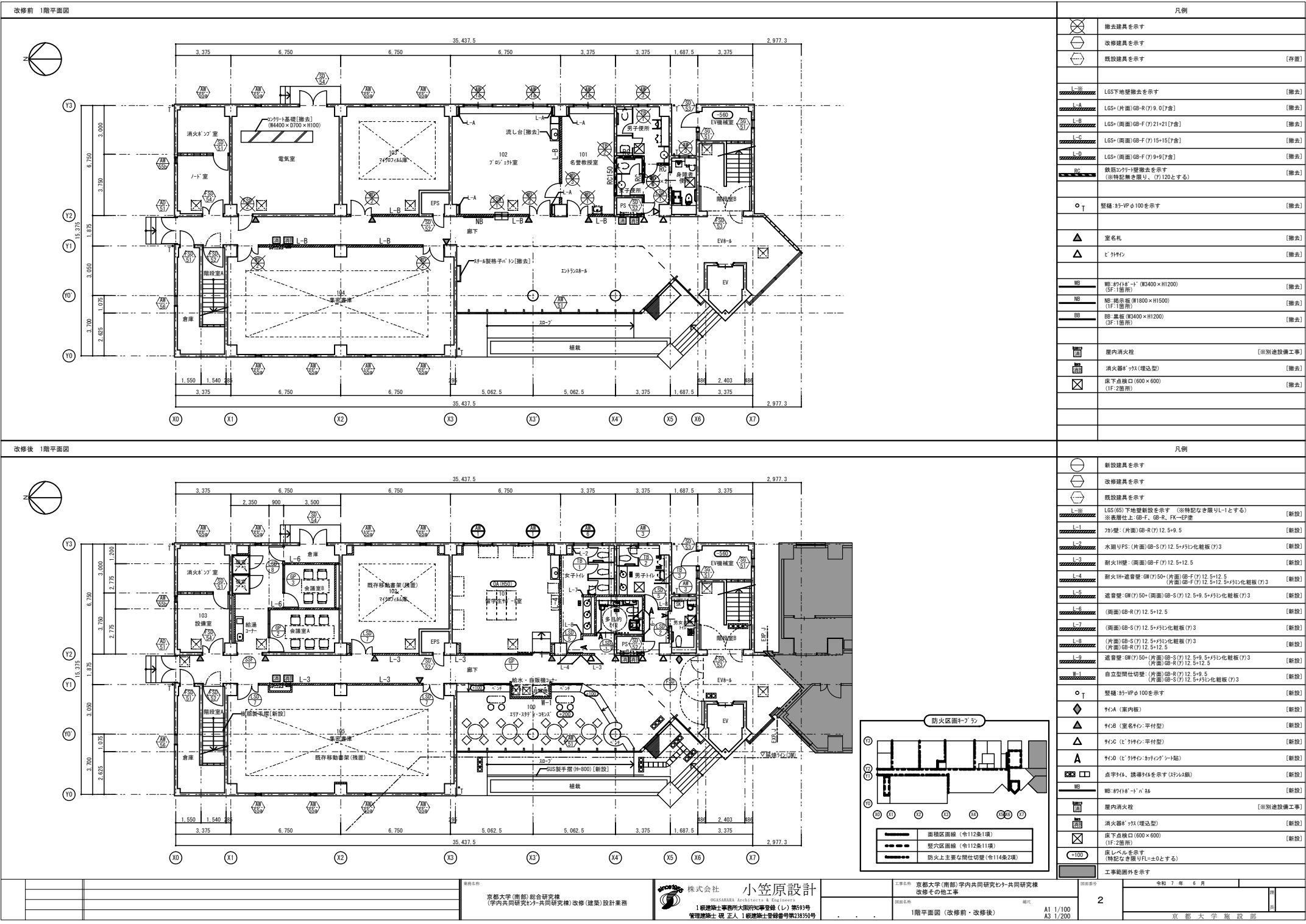


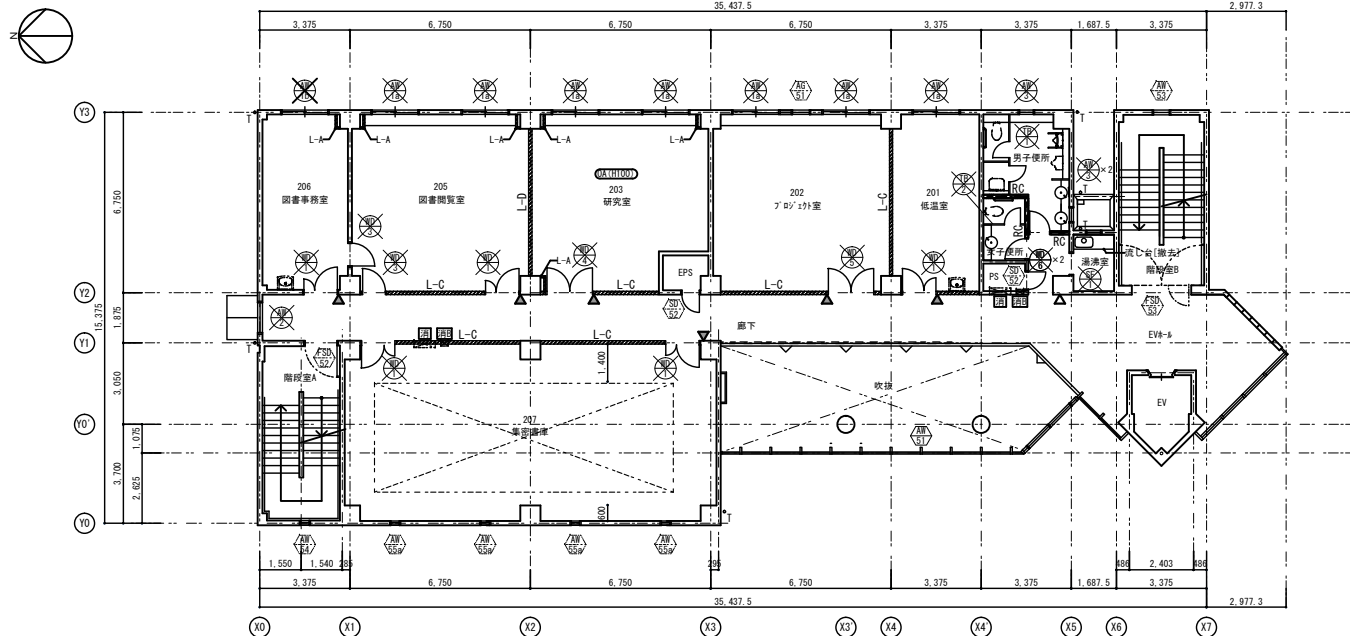
案内図

凡 例

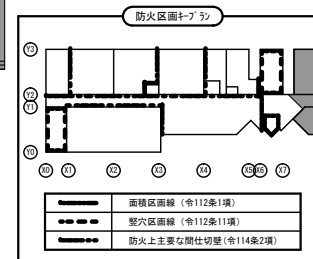
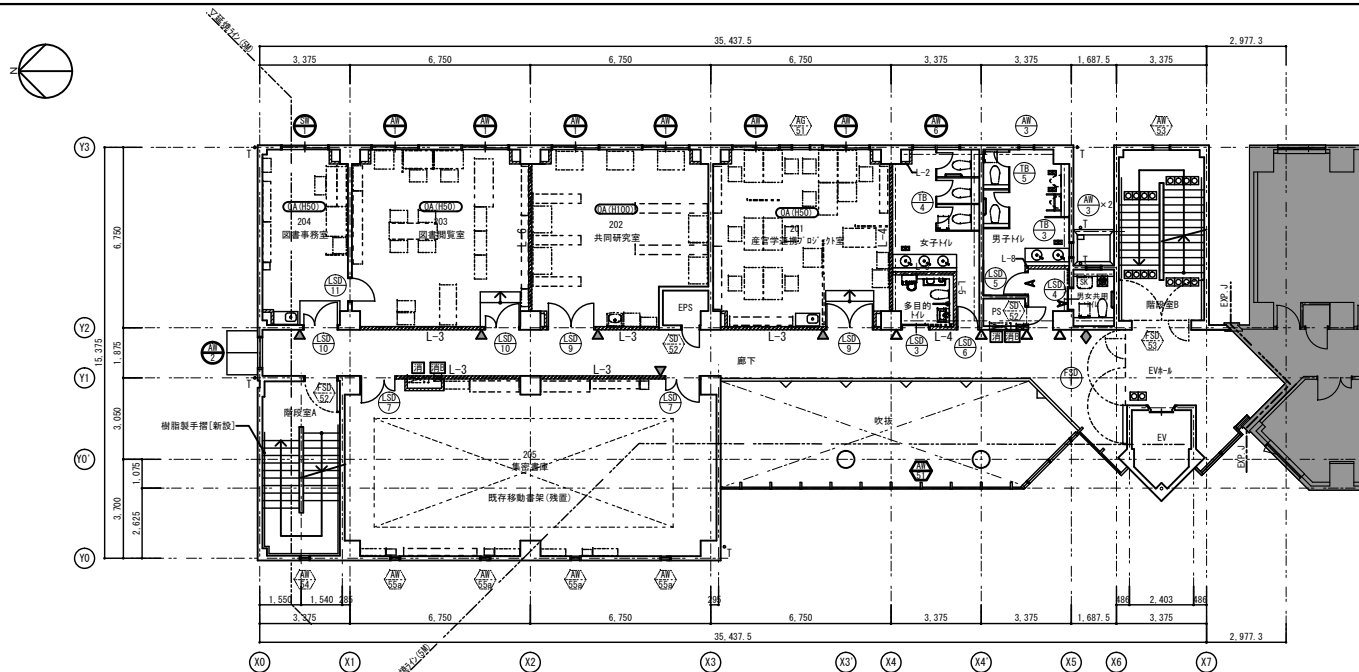
記 号	内 容
	本工事建物
	建築中建物（令和7年1月～令和8年2月）
	工事用地 1,050㎡
	仮囲い（フェンスバリアード H=1.8m） 合計 = 125m
	養生シート張り 外部くさび式本足場 H=建物棟高さまで 合計=113m ※フェンスバリアード設置 ※出入口部は鎖等の鍵付施設の上、 侵入対策を行うこと ※上記範囲外の外壁改修は高所作業 車等で行う
	パネルゲート 2ヶ所
	工事用車両進入経路
	交通整理員（大型車両搬出入時等）
	水道分岐位置
	電力分岐位置

構内配置図 S=1/400

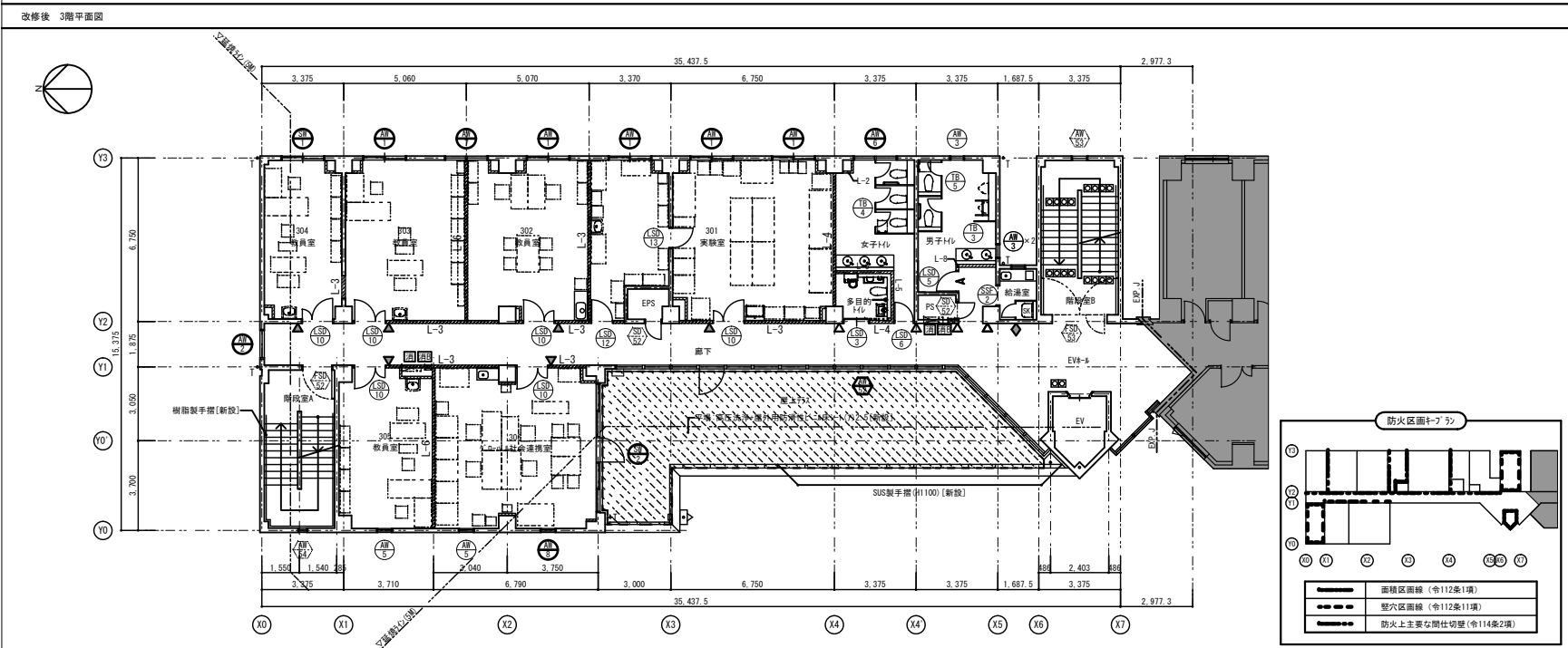
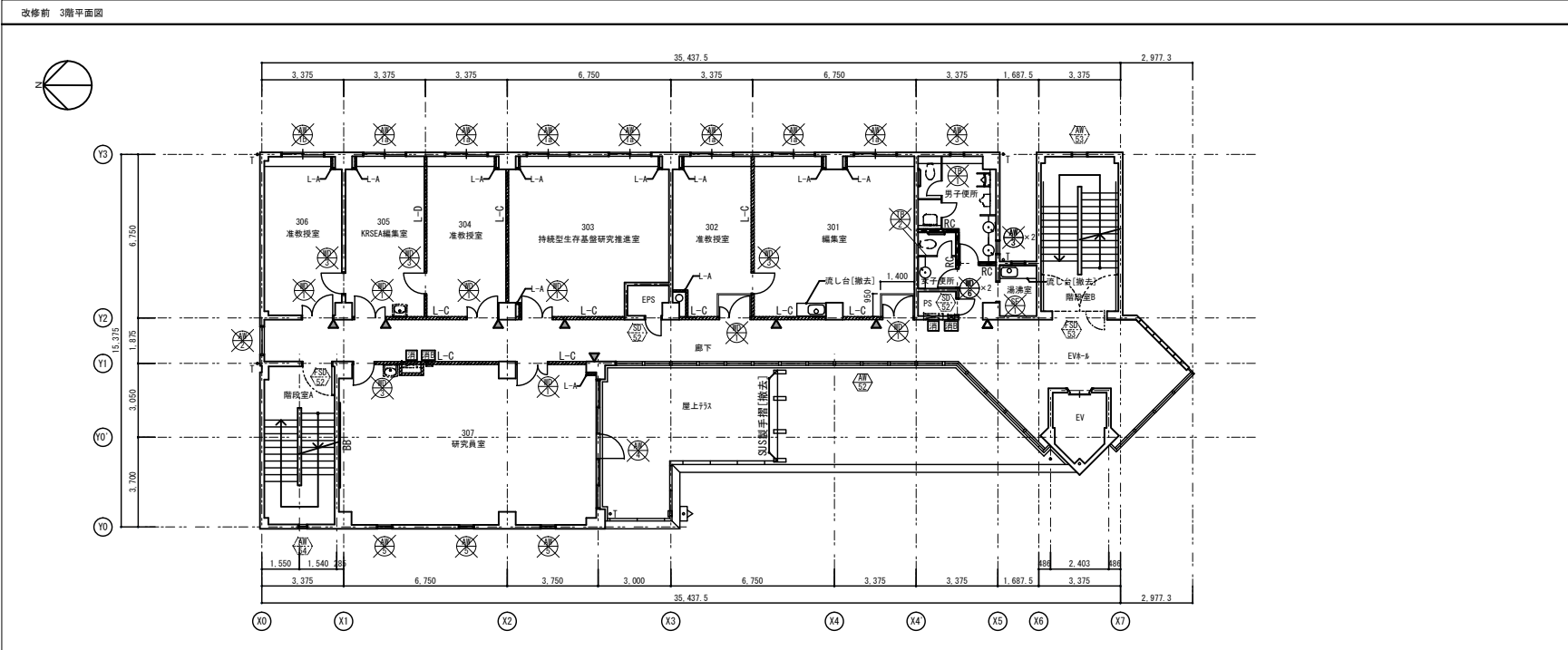




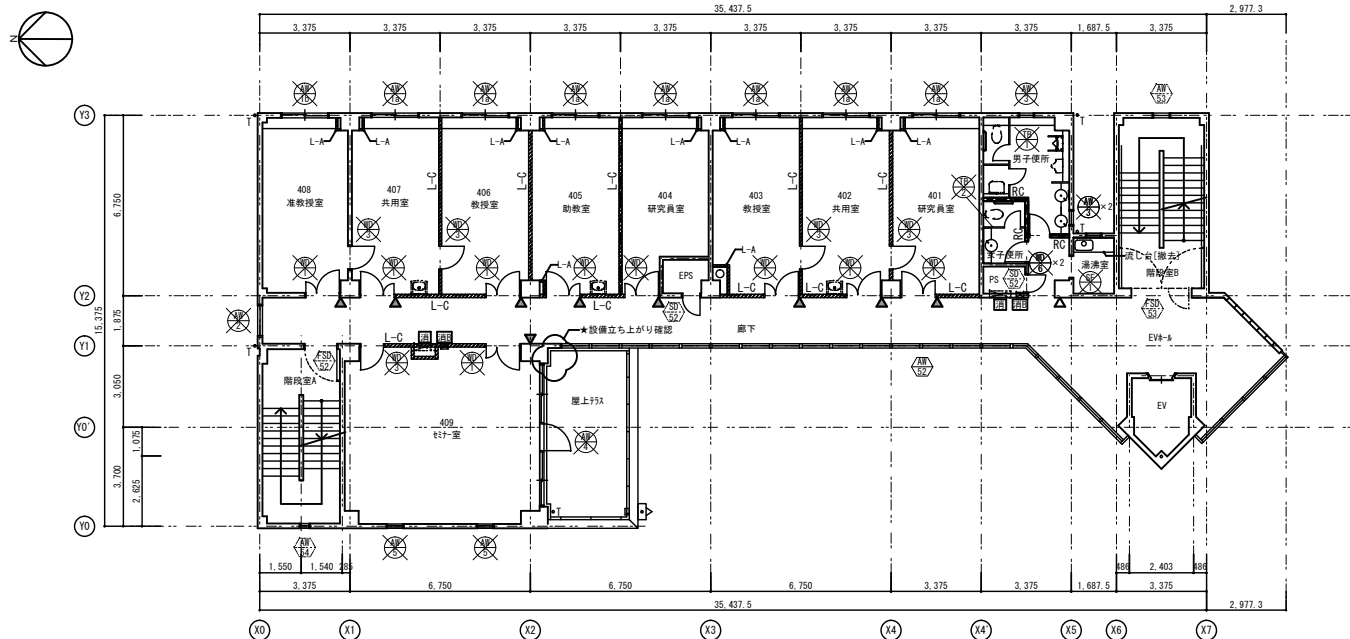
凡例	
	撤去建具を示す
	改修建具を示す
	既設建具を示す (存置)
	LGS下地壁撤去を示す (撤去)
	LGS+ (片面) GB-F (7) 9.0 [7食] (撤去)
	LGS+ (両面) GB-F (7) 21+21 [7食] (撤去)
	LGS+ (両面) GB-F (7) 15+15 [7食] (撤去)
	LGS+ (両面) GB-F (7) 9+9 [7食] (撤去)
	鉄筋コンクリート壁撤去を示す (撤去) (※記付無き限り、(7)120とする)
	壁補強-VFφ100を示す (撤去)
	室名札 (撤去)
	サインサイン (撤去)
	窓: 804H・8" (W3400×H1200) (SF:1箇所) (撤去)
	扉: 視察板 (W1800×H1500) (1F:1箇所) (撤去)
	扉: 扉板 (W3400×H1200) (SF:1箇所) (撤去)
	屋内消火栓 [※別建設工事]
	消火器* 7kg(増込型) (撤去)
	床下点検口 (600×600) (1F:2箇所) (撤去)



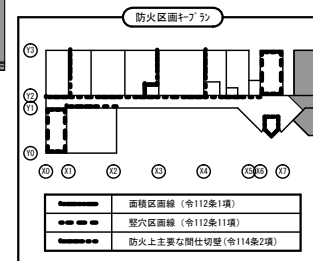
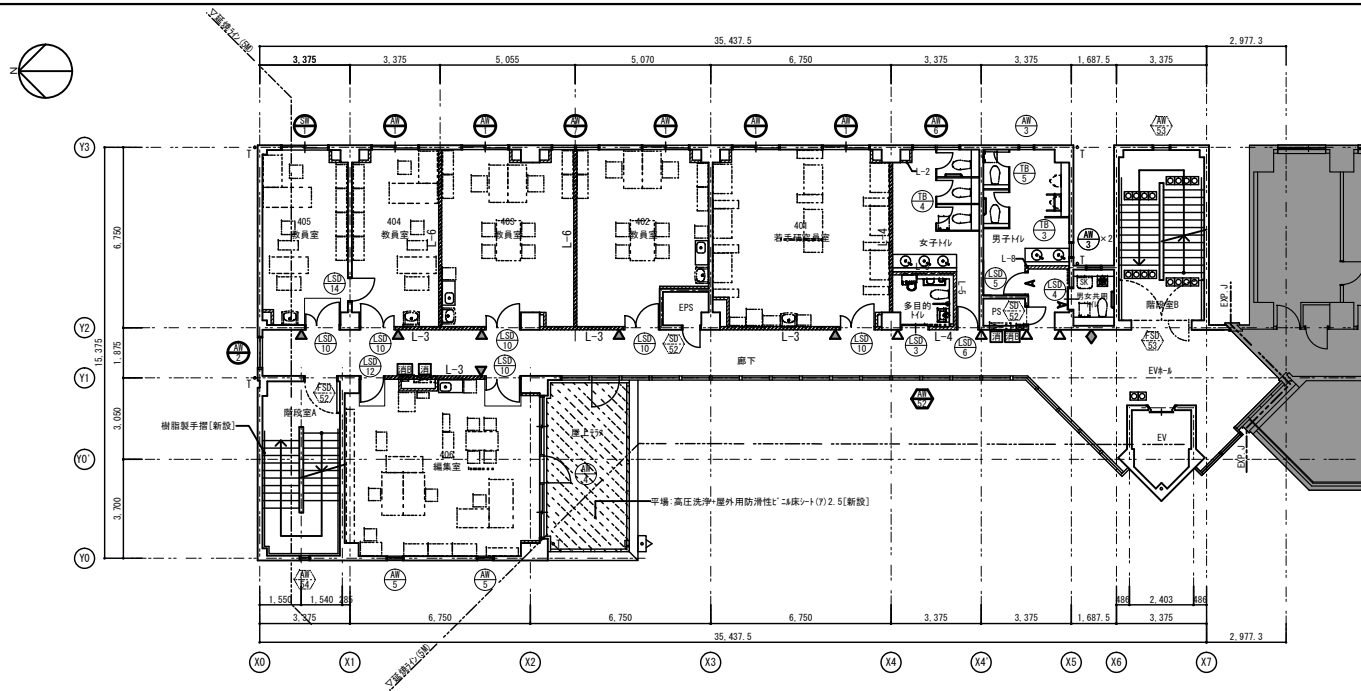
凡例	
	新設建具を示す
	改修建具を示す
	既設建具を示す
	L-38 LOS (65) 下地盤面改修を示す。(※特記なき限りL-1とする) ※表層仕上げ: 6F-S, 6F-R, 6F-R-伊豆
	L-1 7F-S: (片面) 6F-R (7) 12.5+5+5
	L-2 水回り PS: (片面) 6F-S (7) 12.5+5+3mm化粧板 (7) 3
	L-3 耐火IH壁: (両面) 6F-F (7) 12.5+12.5
	L-4 耐火IH+遮音壁: (両) 7F-50+ (片面) 6F-F (7) 12.5+12.5 (片面) 6F-F (7) 12.5+12.5+5+3mm化粧板 (7) 3
	L-5 遮音壁: (両) 7F-50+ (両面) 6F-S (7) 12.5+9.5+5+3mm化粧板 (7) 3
	L-6 (両面) 6F-R (7) 12.5+12.5
	L-7 (両面) 6F-S (7) 12.5+5+3mm化粧板 (7) 3
	L-8 (片面) 6F-S (7) 12.5+5+3mm化粧板 (7) 3 (片面) 6F-R (7) 12.5+12.5
	L-9 遮音壁: (両) 7F-50+ (片面) 6F-S (7) 12.5+9.5+5+3mm化粧板 (7) 3 (片面) 6F-R (7) 12.5+12.5
	W-1 自立型間仕切り壁: (片面) 6F-S (7) 12.5+9.5 (片面) 6F-S (7) 12.5+5+3mm化粧板 (7) 3
	整修: 6F-VP φ100を示す
	6F-A (案内板)
	6F-D (※名付付: 平型仕)
	6F-D (セリ付付: 平型仕)
	6F-D (セリ付付: 6Fリブ付) フット貼)
	点字付板、誘導体を示す (3x16x6板)
	照
	照: 6Fリブ付 6Fリブ貼
	屋内消火栓 [※別途設備工事]
	消火器付 7F2 (埋込型)
	床下点検口 (600×600) (1F: 2箇所)
	床レベルを示す (特記なき限りFL±0.0とする)



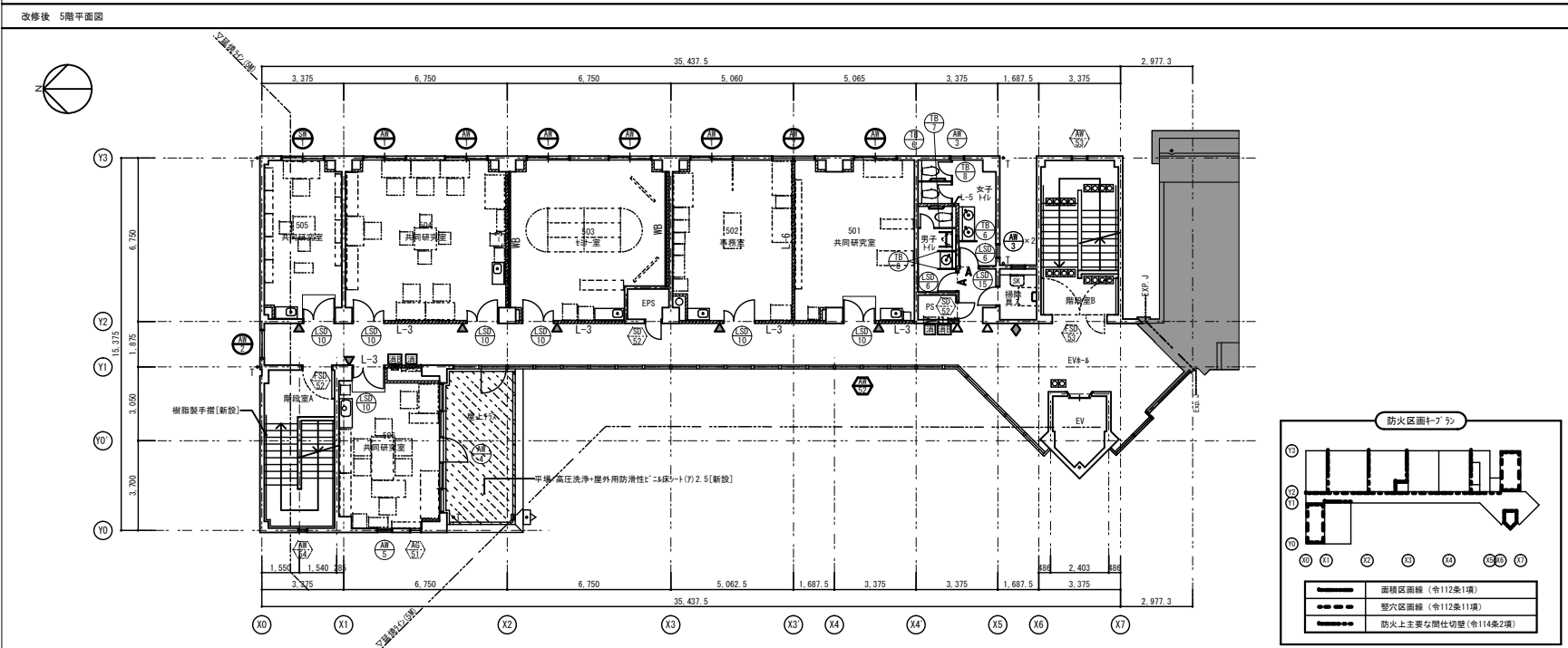
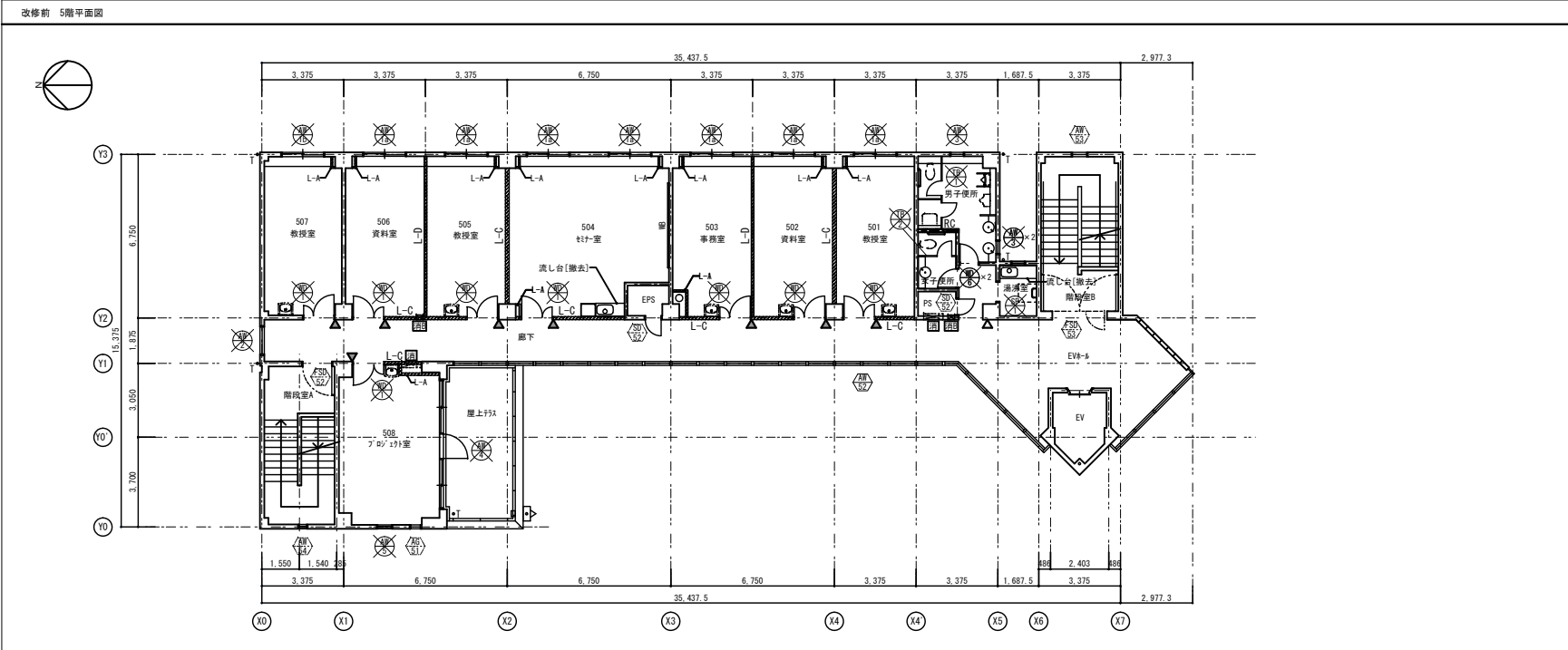
凡例	
	撤去建具を示す
	改修建具を示す
	既設建具を示す
	既設建具を示す (存置)
	L-2 階下地盤撤去を示す
	LGS+(片面)GB-R(F)9.0[7倉]
	LGS+(両面)GB-F(F)21+21[7倉]
	LGS+(両面)GB-F(F)15+15[7倉]
	LGS+(両面)GB-F(F)9+9[7倉]
	鉄筋コンクリート壁撤去を示す (※特記無き限り、(F)120とする)
	壁撤去: かつ-VP φ100を示す
	室名改
	ビ・パーティション
	窓
	窓: かつ-VP φ100 (W3400×H1200) (SF:1箇所)
	窓: 提示板 (W1800×H1500) (SF:1箇所)
	窓: 黒板 (W3400×H1200) (SF:1箇所)
	屋内消火栓
	消火器: かつ-VP φ100 (埋込型)
	床下点検口 (600×600) (F:2箇所)



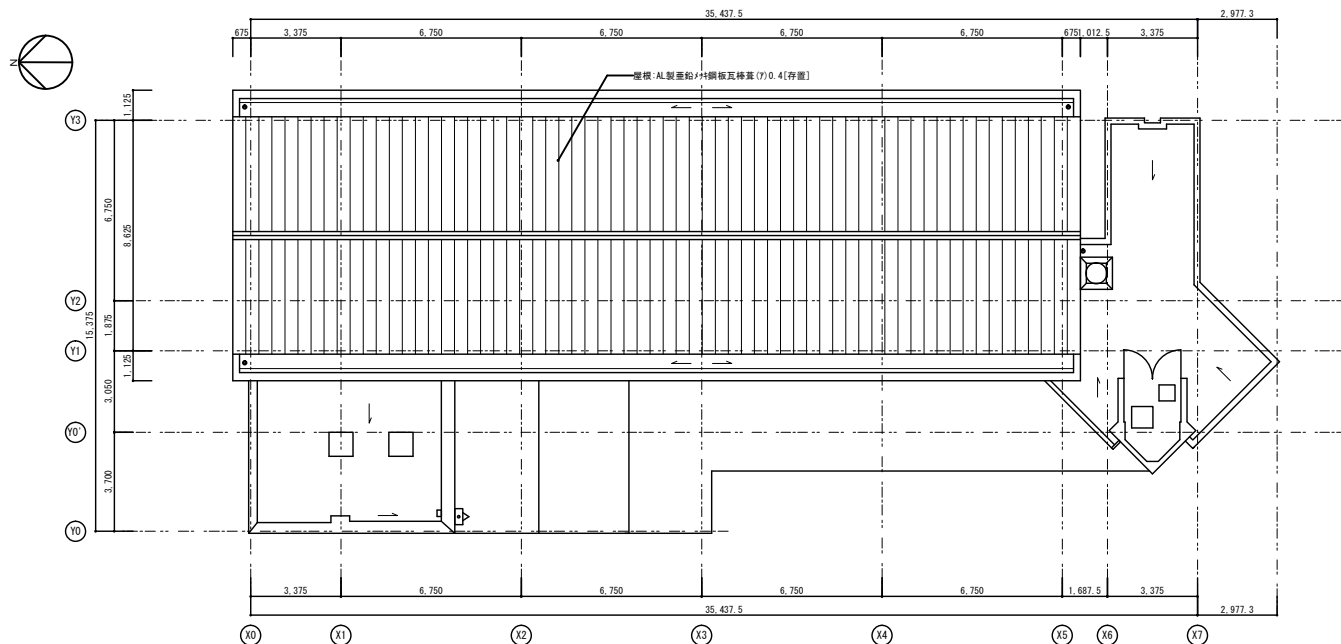
凡例	
	撤去建具を示す
	改修建具を示す
	既設建具を示す
	LGS地下壁撤去を示す
	LGS+ (片面) GB-R (7/9.0) [撤去]
	LGS+ (両面) GB-F (7/21+21) [撤去]
	LGS+ (両面) GB-F (7/15+15) [撤去]
	LGS+ (両面) GB-F (7/9+9) [撤去]
	鉄筋コンクリート壁撤去を示す (※特記無き限り、(7/120とする))
	壁樋:35-VFφ100を示す
	室名札
	ビラサイン
	WD: 8014H-1' (W3400×H1200) (SF:1箇所)
	WD: 8014H (W1800×H1500) (1F:1箇所)
	WD: 8014H (W3400×H1200) (SF:1箇所)
	屋内消火栓
	消火器*721(環込型)
	床下点検口 (600×600) (1F:2箇所)



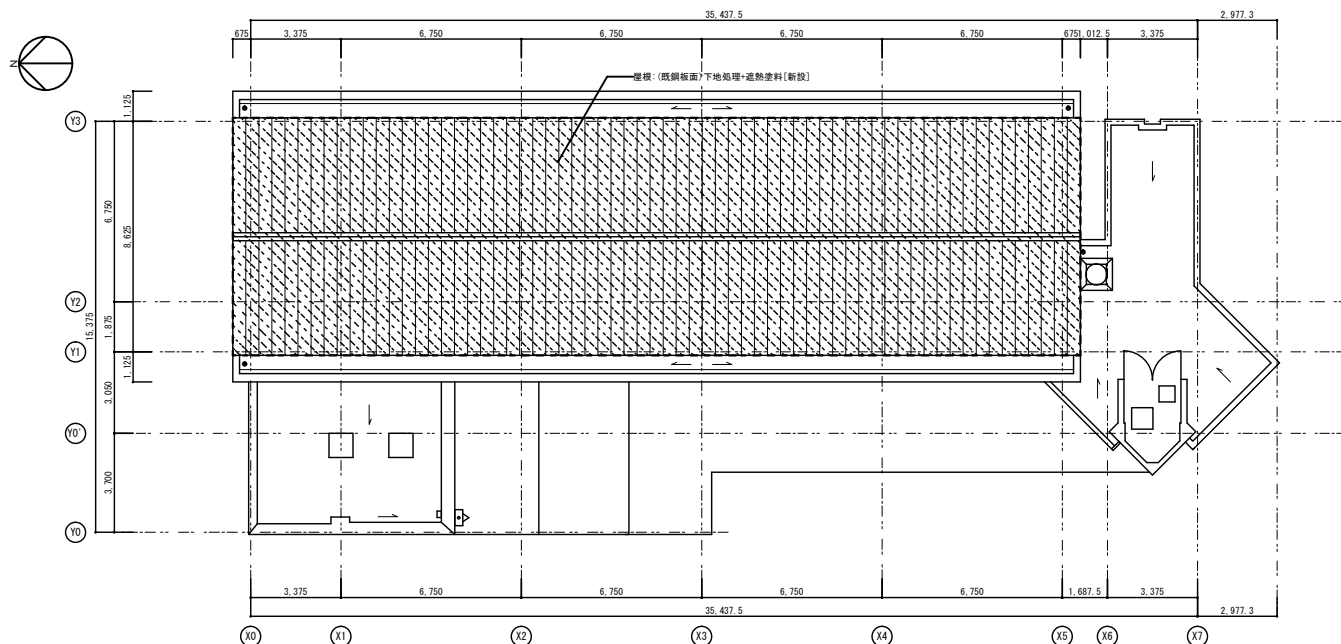
	凡例	
	新設建具を示す	
	改修建具を示す	
	既設建具を示す	
L-8	LS(65)下地盤面剥離を示す（※特記なき限りL-1とする） ※養生措置：①F、②R、FK-E型塗	[新設]
L-1 	7カ壁：(片面)⑥R・⑦(12.5+9.5)	[新設]
L-2 	水廻りPS：(片面)⑥S・⑦(12.5+9.5)+強化化粧(F)3	[新設]
L-3 	耐火H壁：(両面)⑥F・⑦(12.5+12.5)	[新設]
L-4 	耐火IH遮音壁：⑧F50+(片面)⑥F・⑦(12.5+12.5) (片面)⑥R・⑦(12.5+12.5)+9.5+9.5+強化化粧(F)3	[新設]
L-5 	遮音壁：⑦(12.5+9.5)(両面)⑥S・⑦(12.5+9.5)+9.5+9.5+強化化粧(F)3	[新設]
L-6 	(両面)⑥R・⑦(12.5+12.5)	[新設]
L-7 	(両面)⑥S・⑦(12.5+9.5)+9.5+強化化粧(F)3	[新設]
L-8 	(片面)⑥S・⑦(12.5+9.5)+9.5+強化化粧(F)3 (片面)⑥R・⑦(12.5+12.5)	[新設]
L-9 	遮音壁：⑧W(12.5+9.5)(片面)⑥S・⑦(12.5+9.5)+9.5+9.5+強化化粧(F)3 (片面)⑥R・⑦(12.5+12.5)	[新設]
H-1 	自立型棚仕切壁：(片面)⑥R・⑦(12.5+9.5) (片面)⑥S・⑦(12.5+9.5)+9.5+強化化粧(F)3	[新設]
O T 	堅壁：ｶﾞｰﾌﾞP100を示す	[新設]
	ｷﾅA (案内板)	[新設]
	ｷﾅB (窓名ｷﾅC・平付型)	[新設]
	ｷﾅD (ﾋﾞﾀｷﾅC・平付型)	[新設]
	ｷﾅE (ﾋﾞﾀｷﾅC・ｶｯﾄｸﾞﾗｽﾞｼｰﾄ貼)	[新設]
A 	ｷﾅF (ﾋﾞﾀｷﾅC・ｶｯﾄｸﾞﾗｽﾞｼｰﾄ貼)	[新設]
 	点字ｷﾅE、誘導ｷﾅEを示す(ｽﾀﾝﾄﾞ版)	[新設]
照 	照：ｶｯﾄｸﾞﾗｽﾞﾊﾟﾈﾙ	[新設]
	屋内消火栓	[※別途建築工事]
	消火器ｶｯﾌﾟ(埋込型)	[新設]
 	床下点検口(600×600) (1F：2箇所)	[新設]
-100 	床レベルを示す (特記なき限り±0とする)	
	工事範囲外を示す	



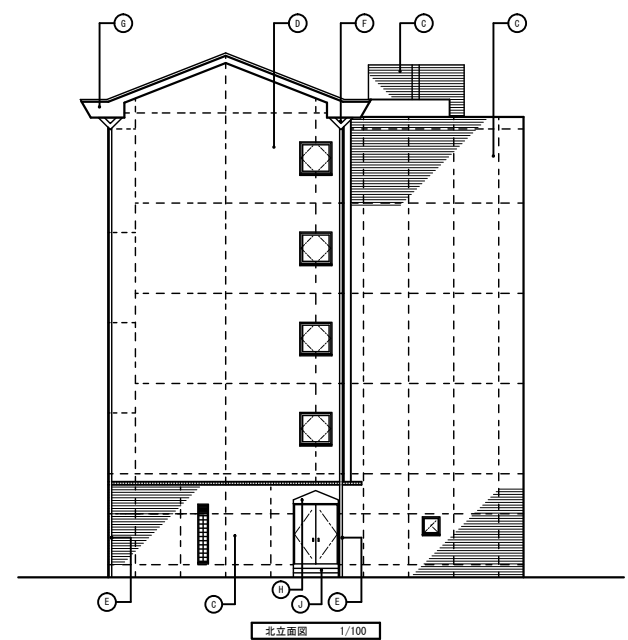
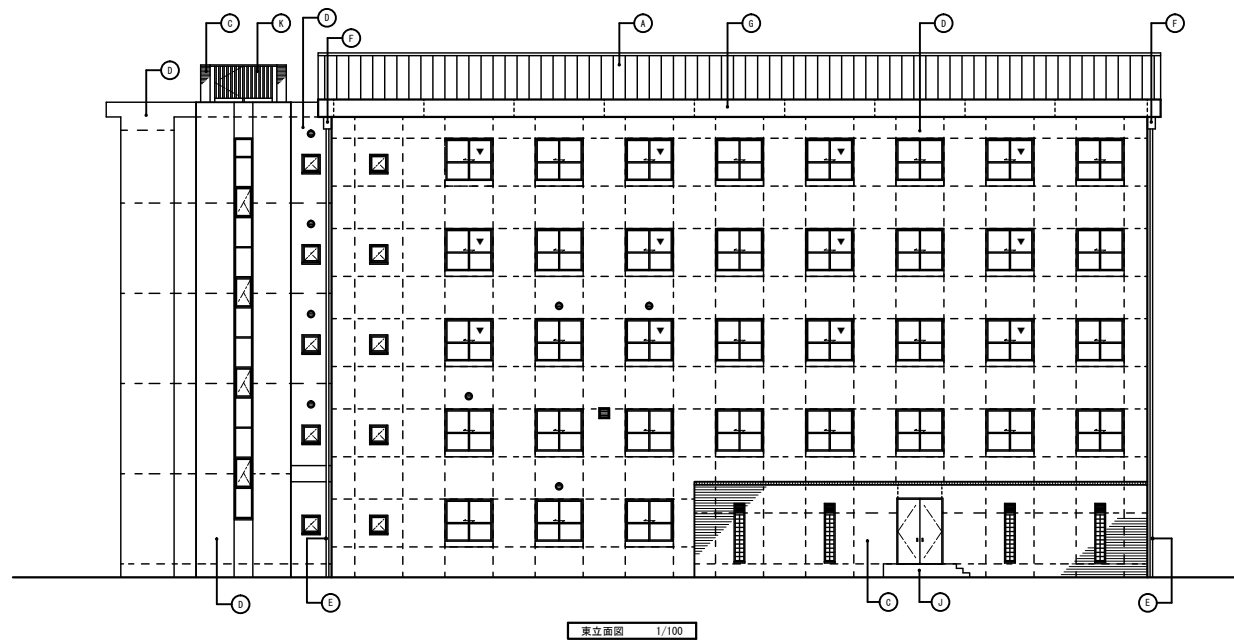
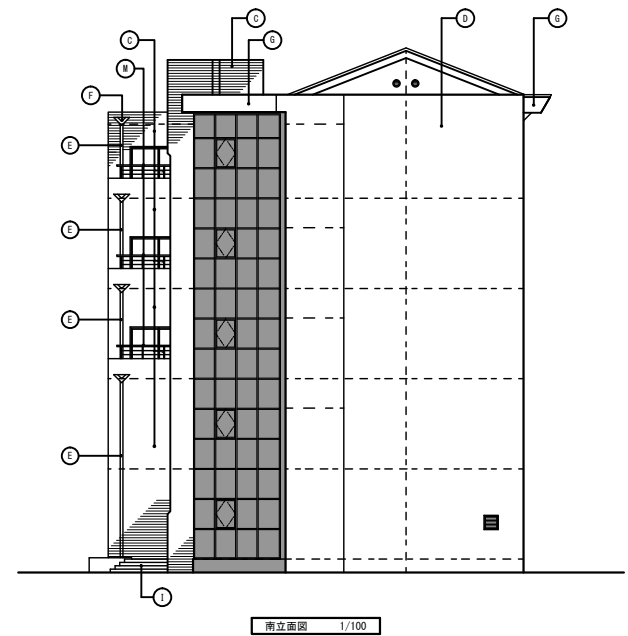
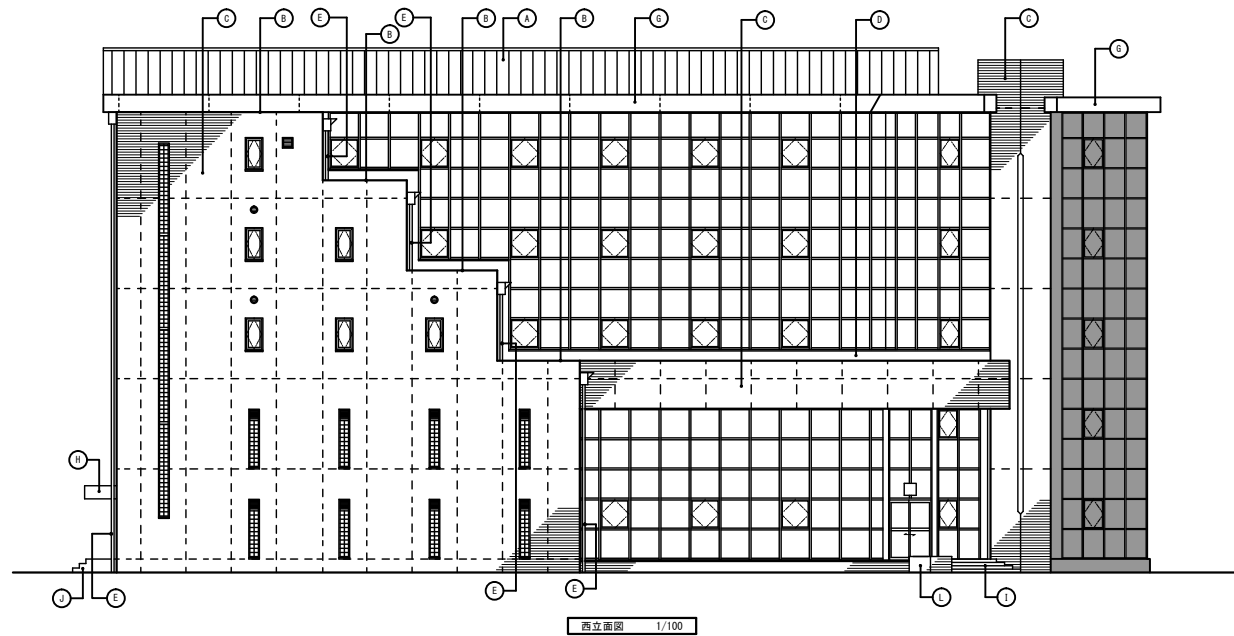
凡例	
	撤去建具を示す
	改修建具を示す
	既設建具を示す
	L-2 壁 LGS下地壁撤去を示す
	LGS+(片面)GB-R(F)9.0[7倉]
	LGS+(両面)GB-F(F)21+21[7倉]
	LGS+(両面)GB-F(F)15+15[7倉]
	LGS+(両面)GB-F(F)9+9[7倉]
	鉄筋コンクリート壁撤去を示す (※特記無き限り、(F)120とする)
	壁撤去: かつ-VP φ100を示す
	室名札
	ビ・パーティション
	窓: かつ-18-1 (W3400×H1200) (GF:1箇所)
	窓: 提示板 (W1800×H1500) (1F:1箇所)
	窓: 黒板 (W3400×H1200) (GF:1箇所)
	屋内消火栓
	消火器: かつ-2 (埋込型)
	床下点検口 (600×600) (1F:2箇所)



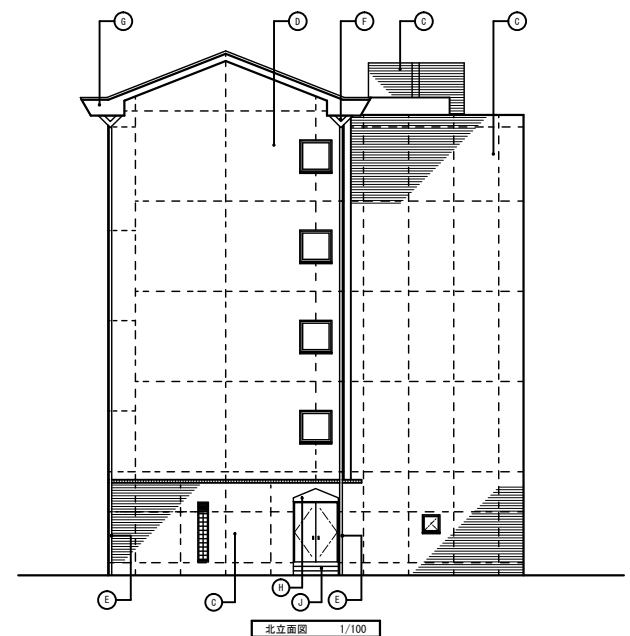
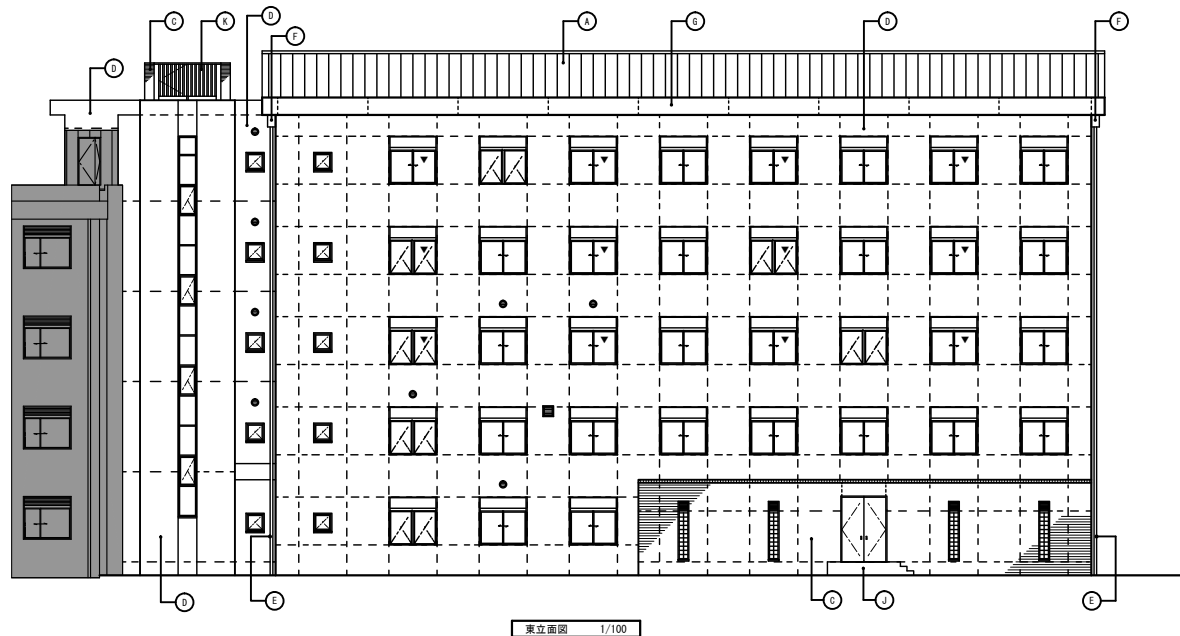
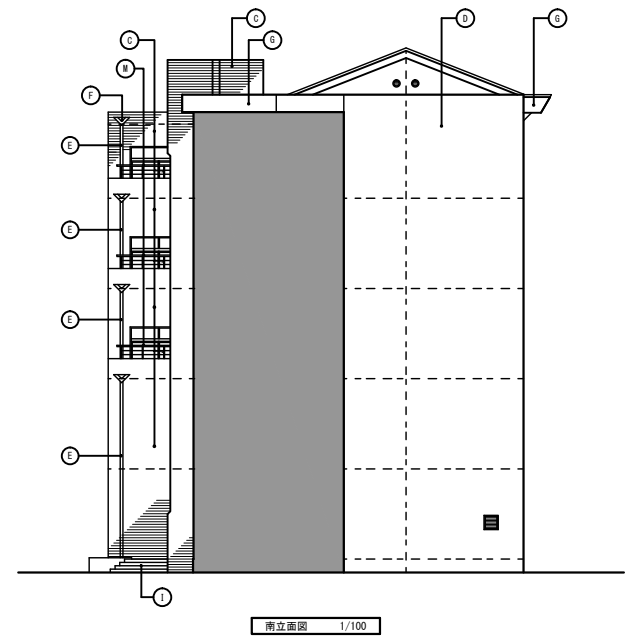
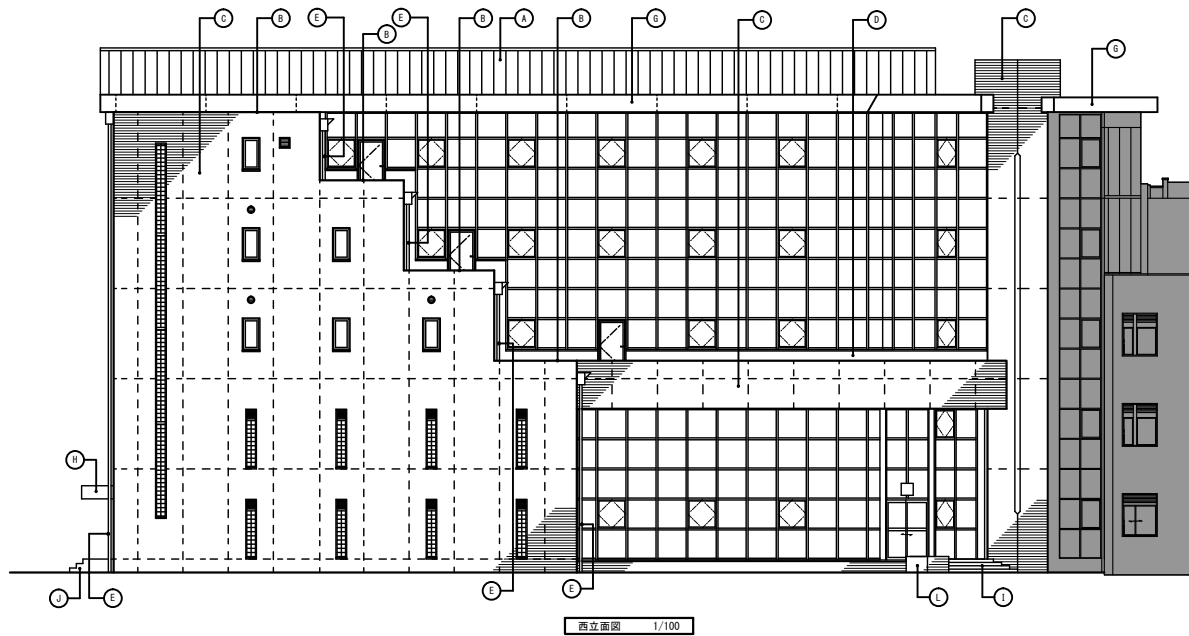
凡例	
	撤去建具を示す
	改修建具を示す
	既設建具を示す
	(存置)
	LG下地壁撤去を示す
	(撤去)
	LG+(片面)GB-F(7)9.0〔7食〕
	(撤去)
	LG+(片面)GB-F(7)21+21〔7食〕
	(撤去)
	LG+(片面)GB-F(7)15+15〔7食〕
	(撤去)
	LG+(片面)GB-F(7)9+9〔7食〕
	(撤去)
	鉄筋コンクリート壁撤去を示す (※特記無き限り、(7)120とする)
	(撤去)
	整地・9-VPφ100を示す
	(撤去)
	室名札
	(撤去)
	ヒットサイン
	(撤去)
	WB: 9(11)8-1 (W3400×H1200) (SF:1箇所)
	(撤去)
	WB: 撤去板 (W1800×H1500) (IF:1箇所)
	(撤去)
	WB: 貴板 (W3400×H1200) (SF:1箇所)
	(撤去)
	屋内消火栓
	(※別途設備工事)
	消火器* 77A(埋込型)
	(撤去)
	床下点検口 (600×600) (IF:2箇所)
	(撤去)



凡例		
	新設建具を示す	
	改修建具を示す	
	既設建具を示す	
	LGS (65) 下地堅固新設を示す (※特記なき限り L-1 とする) ※巻上仕上: 6B-F、6B-R、FK-1P 巻	[新設]
	L-1 カパ壁: (片面) 6B-R (7) 12.5+9.5	[新設]
	L-2 水廻り PS: (片面) 6B-S (7) 12.5+9.5+3/8ヒ化粧板 (7) 3	[新設]
	L-3 耐火 1H 壁: (両面) 6B-F (7) 12.5+12.5	[新設]
	L-4 耐火 1H+通音壁: 6B-F (7) 50+(片面) 6B-F (7) 12.5+12.5 (片面) 6B-F (7) 12.5+12.5+9.5+3/8ヒ化粧板 (7) 3	[新設]
	L-5 通音壁: 6B-F (7) 50+(両面) 6B-S (7) 12.5+9.5+9.5+3/8ヒ化粧板 (7) 3	[新設]
	L-6 (両面) 6B-R (7) 12.5+12.5	[新設]
	L-7 (片面) 6B-S (7) 12.5+9.5+3/8ヒ化粧板 (7) 3	[新設]
	L-8 (片面) 6B-S (7) 12.5+9.5+3/8ヒ化粧板 (7) 3 (片面) 6B-R (7) 12.5+12.5	[新設]
	L-9 通音壁: 6B-F (7) 50+(片面) 6B-S (7) 12.5+9.5+9.5+3/8ヒ化粧板 (7) 3	[新設]
	H-1 自立型間仕切壁: (片面) 6B-R (7) 12.5+9.5 (片面) 6B-S (7) 12.5+9.5+3/8ヒ化粧板 (7) 3	[新設]
	○ _T 堅壁: 3ヶ-VP d100 を示す	[新設]
	サ/A (案内板)	[新設]
	サ/B (番号サ付: 平付型)	[新設]
	サ/C (ビ'サ付: 平付型)	[新設]
	サ/D (ビ'サ付: 3ヶ付: 3ヶ付)	[新設]
	点字サ、誘導サを示す (スランズ版)	[新設]
	廊: 廊付材・ド'パ'誌	[新設]
	屋: 屋内消火栓	[※別途設備工事]
	消火器 6ヶ' (2ヶ' 3ヶ' 4ヶ' 5ヶ' 6ヶ')	[新設]
	床下点検口 (600×600) (1F: 2箇所)	[新設]
	床レベルを示す (特記なき限り FL±0 とする)	
	工事範囲外を示す	



凡例		外部仕上										特記事項			
工事範囲外を示す		記号	部位	仕上	記号	部位	仕上	記号	部位	仕上		外部仕上			
シールド目地を示す (PS:25×10)		(撤去)	A	傾斜屋根	7A:2型重松/41鋼板瓦棒葺 (7)0.4	[存置]	F	飾り	SUS製HL仕上	[存置]	K	目隠し&バ-	ST製SOP造	[存置]	※外壁面の7Aは撤去すること
代替出入口			B	庇	AL製笠木	[存置]	G	庇A	コクリート打放し+外装薄塗材E	[存置]	L	花壇	せつ器質二丁掛り体	[存置]	
			C	外壁A	せつ器質二丁掛り体	[存置]	H	庇B	スチール製2丁掛り板付塗装	[存置]	M	手摺	SUS製HL仕上	[存置]	
			D	外壁B	コクリート打放し+外装薄塗材E	[存置]	I	屋外階段A	レンガ 舗装	[存置]					
			E	壁樋	お-VPφ100	[撤去]	J	屋外階段B	コクリート打放し	[存置]					



凡例		外部仕上										外壁下地補修(2)(参考値)					
工事範囲外を示す		記号	部位	仕上	記号	部位	仕上	記号	部位	仕上	項目	数量(合計)	補修方法				
シールド目地を示す(PS:25×10)	(新設)	A	傾斜屋根	(既設板面)下地処理+遮熱塗料	(新設)	C	修22	—	[既設のまま]	K	目隠し&~	DP塗料	ひび割れ部補修(吹付面)	15.0 (㎡)	自動式低圧24 砂樹脂注入工法		
代替出入口:三角~s	(新設)	B	n°3°~t	—	[既設のまま]	G	底A	(既吹付面)下地処理+下地調整材(C-1塗)+複層塗料E吹替	[既設のまま]	L	花壇	(既吹付面)高圧洗浄	厚き補修(吹付面)	7.5 (㎡)	アクリル樹脂部分24 砂樹脂注入工法		
		C	外壁A	(既吹付面)高圧洗浄		H	底B	—	[既設のまま]	M	手摺	—	※施工前に外壁調査を行うこと				
		D	外壁B	(既吹付面)下地処理+下地調整材(C-1塗)+複層塗料E吹替		I	屋外階段A	高圧洗浄									
		E	壁樋	射-VP φ100	(新設)	J	屋外階段B	高圧洗浄									
		京都大学(南区)総合研究棟 (学内共同研究センター共同研究棟) 改修(建築)設計業務										京都大学(南区)学内共同研究センター共同研究棟 改修その他工事		9		令和 7 年 6 月	
		株式会社 小笠原設計 〒606-8501 京都市南区九条5丁目1番1号 小笠原設計ビル3F TEL:075-251-1850 FAX:075-251-1851										図面名 (改修後)		A1 1/100 A3 1/200		京都大学施設部	

